

第6学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
授業者 〇 〇 〇 〇

1 主題名

自他の権利を尊重すること 「C-(12) 規則の尊重」

2 ねらいと教材

(1) ねらい

自他の権利を尊重しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名

「ピアノの音が……」 (東京書籍 新しい道徳6年)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編第5学年及び第6学年の「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の指導事項「(12)規則の尊重」 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすことを受けている。

この時期の児童は、法やきまりを守ることは大切なことであると理解している。しかし、自分の権利は主張しても、相手の権利までに思いを及ぼせることは少ないと考えられる。そこで、身近な集団生活を送る上で、お互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが、お互い気持ちよく生活するために大切であるということを理解することや、自ら進んで積極的に行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てることが大切であると考えられる。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、これまでに、約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ることを学んできた。毎日の生活の中で、学級のきまりを守り、よりよく生活しようとする意欲は身に付いてきている。しかし、雨の多いこの時期、児童は、休み時間に教室で過ごすことが増え、業間や昼休みに自分のやりたいことだけを考え、騒音の問題が起きることが考えられる。ある児童はオルガンを弾いたり、ある児童はダンスを踊ったりして騒々しく過ごしている。一方、ある児童は、静かに本を読んだり、友達と話したり静かに過ごしたいと思っている。休み時間は、どちらにも好きなことをして過ごす権利があり、どちらか一方が我慢すればいいわけではない。そこで、自分の権利を主張するだけでなく、相手の権利も尊重し、お互いに気持ちよく生活するためには、どうしたらよいかを考え行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、同じマンションに住む住民同士の騒音のトラブルを扱っている。マンションで、静かにする時間を決めたのだが、それ以外の時間にピアノを弾く女性に対して、隣に住むおじさんが静かに生活したいと、マンションの管理人に訴えるという内容である。女性は、きまりを守ってピアノを弾いているのだが、おじさんにとっては、静かに生活したいという権利が守られていることにはならない。集団生活の中で、規則を守っている上で起こる騒音という問題場面を取り上げ、お互いの権利を守りながら気持ちよく集団で生活するためには、どうしたらよいかということについて考えることを通して、相手の気持ちや立場も考えて、自分の権利だけでなく、相手の権利も尊重しようとする実践意欲と態度につなげていきたい。

教材では、マンションの管理人の岡さんが登場するが、今回は二人の権利の尊重を取り扱うため第三者の立場である岡さんの心情には触れない。また、登場人物の心情や問題場面を考えるために授業当日の朝の読書で、事前読みをさせておき、すぐに内容に入れるようにしておく。

4 学習指導過程

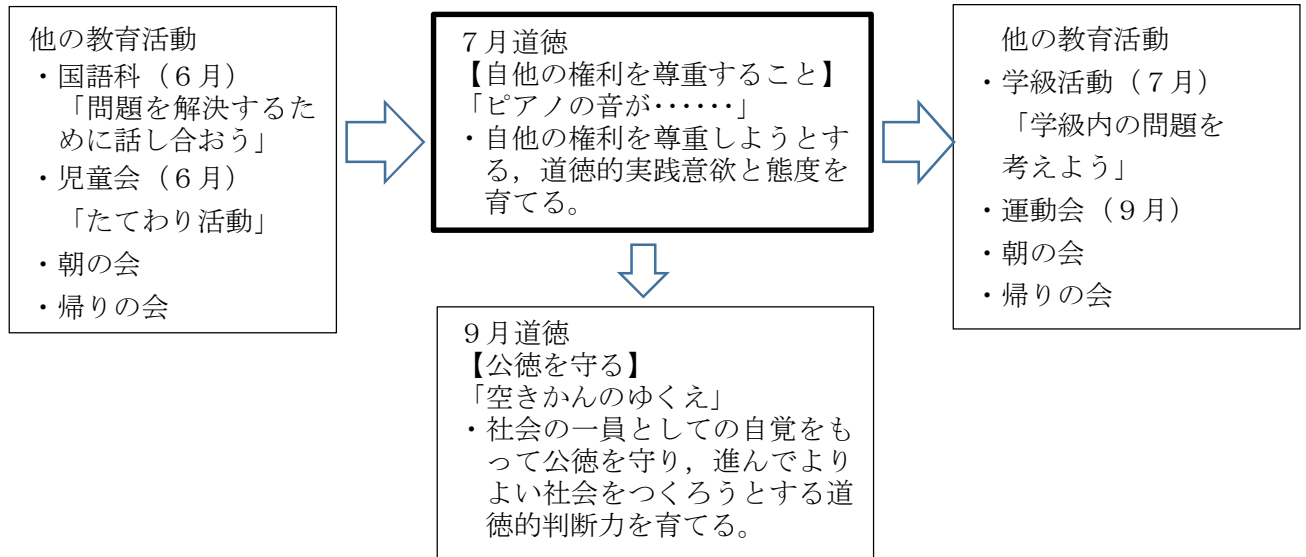
	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 休み時間の過ごし方について話し合い、問題の所在を確かめる。</p> <p>○ 休み時間の過ごし方で困ることは、どのようなことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かに過ごしたいのにうるさい人がいて困る。 ・ボールの取り合いになる。 <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お互いの権利を大切にするために、大事なことは何だろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題につなげるために、日頃の休み時間の過ごし方での出来事など、児童が考える必然性がある問題を提示する。 ・困ることを話すことで、休み時間は、きまりを守っていれば、好きなことをして過ごすことができるが、相手のことを考えないと、互いの権利を尊重しているとは言えないことに気付かせる。
展開 前段 10分	<p>3 登場人物の心情を捉える。</p> <p>○ 「裁判を起こす」と言ったおじさんの気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うるさくて我慢できない。 ・ピアノを弾かないでほしい。 ・静かにしてほしい。 ・静かに生活する権利を守ってほしい。 <p>○ おじさんに「裁判を起こす」と言われた女の人の気持ちを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの練習をしたいのに。 ・ルールを守っているのに、文句を言われても困る。 ・ピアノを弾く権利があるのに。 ・どうしたらいいのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの権利に気付かせるために、おじさんと女の人の気持ちを自分との関わりで考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なかなか考えが出ないときは、以下のよう に、問い返す。 「裁判を起こすって言うのは、普通のこと ではないよね」 「ルールを守っているのに、うるさいっ て言われてますよ」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・二人の気持ちを理解し、どちらにも権利があることに気付かせることを通して、どうしたら解決できるのかを考えさせていく。
展開 後段 25分	<p>4 自他の権利を尊重するために必要なことについて考える。</p> <p>○ 二人の立場になって、解決に向けた話し合いを演じてみましょう。</p> <p>女「どれだけうるさいですか」 男「とてもがまんできないほど、うるさいんだよ」 女「私も、ピアノを弾きたいのです。困ったな。どこから聞こえてきますか」 男「えーと、こっちのかべから聞こえてくるんだよ。うるさいよ」 女「そうですか。では、弾く場所を変えてみます」 男「変える？できますか。では、お願いします」 ○おじさん役をしてどう思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が役になりきれるように、場面や人物の設定を明確に伝える。 ・児童が安心して本音で演じることができるよう、役割演技の上手い下手は関係ないこと、見ている人は茶化さないこと、演じる人はふざけないことを約束し、それぞれの思いや考えを理解するための学習であることを伝える。 ・役割演技を通して、自他の権利を尊重するためには、相手の立場や気持ちを考えて対応しなければならない難しさに気付かせる。 ・意図的指名につなげるために、初めは、ペアで考えたことを即興的に言わせ、児童の考え方や見方を見取るようにする。 ・次に、代表のペアに全体で役割演技をさせ、見ている児童は、それぞれがどのような気持ち

<ul style="list-style-type: none"> 相手の顔を見て訴えるというのは、難しく、あまり強く言えなかった。 女の人に、話を聞いてもらえたら、訴えるという怒りが収まってきた。 <p>○女の人の役をしてどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> どうしたら、ピアノを弾くことができるのか、たくさん話を聞いて解決できるように考えました。 <p>○見ていた人は、二人のどのような思いを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> じっくり話さないと解決は難しいのだと思いました。 相手を思いやる気持ちがあると、解決に向かうのだなと思いました。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 二人を解決に向かわせたものは何だと思いますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考えて、自分ができることをする気持ち。 ゆずり合う気持ち。 やさしさや思いやり。 相手に、自分の思いを伝える勇気。 自分ができることは何かを考えて行動すること。 	<p>ちで自分の思いを伝え、解決を図ろうとしているかを想像するという視点を与えることで、さらに道徳的価値について迫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いの権利を守るために大切なことは何か、他の内容項目との関連も踏まえて深く考えさせる。 全体で発表し合い、自分以外の多様な考えにも触れさせることで、相手の権利を守るためには、お互いに話し合ったり、相手のことを思いやったり、相手のことを思っって行動することの大切さに気付かせたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>関連する道徳的価値の統合 「相互理解，寛容」「親切，思いやり」 「自由と責任」「勇気と希望」など</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末5分</p> <p>5 自己の生き方について考える。</p> <p>○ あなたがお互いの権利を大切にするために、大事だと思うことはどのようなことでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで、自分の権利ばかり考えていたけれど、友達のことでも思いやる必要があります。 お互いの権利を大切にするために、相手を受け入れることが大切。 自分は我慢すればいいと思っていたけれど、勇気を出して自分の権利を伝えようと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるために、振り返りの視点を示す。

【評価】

自他の権利の尊重について問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。

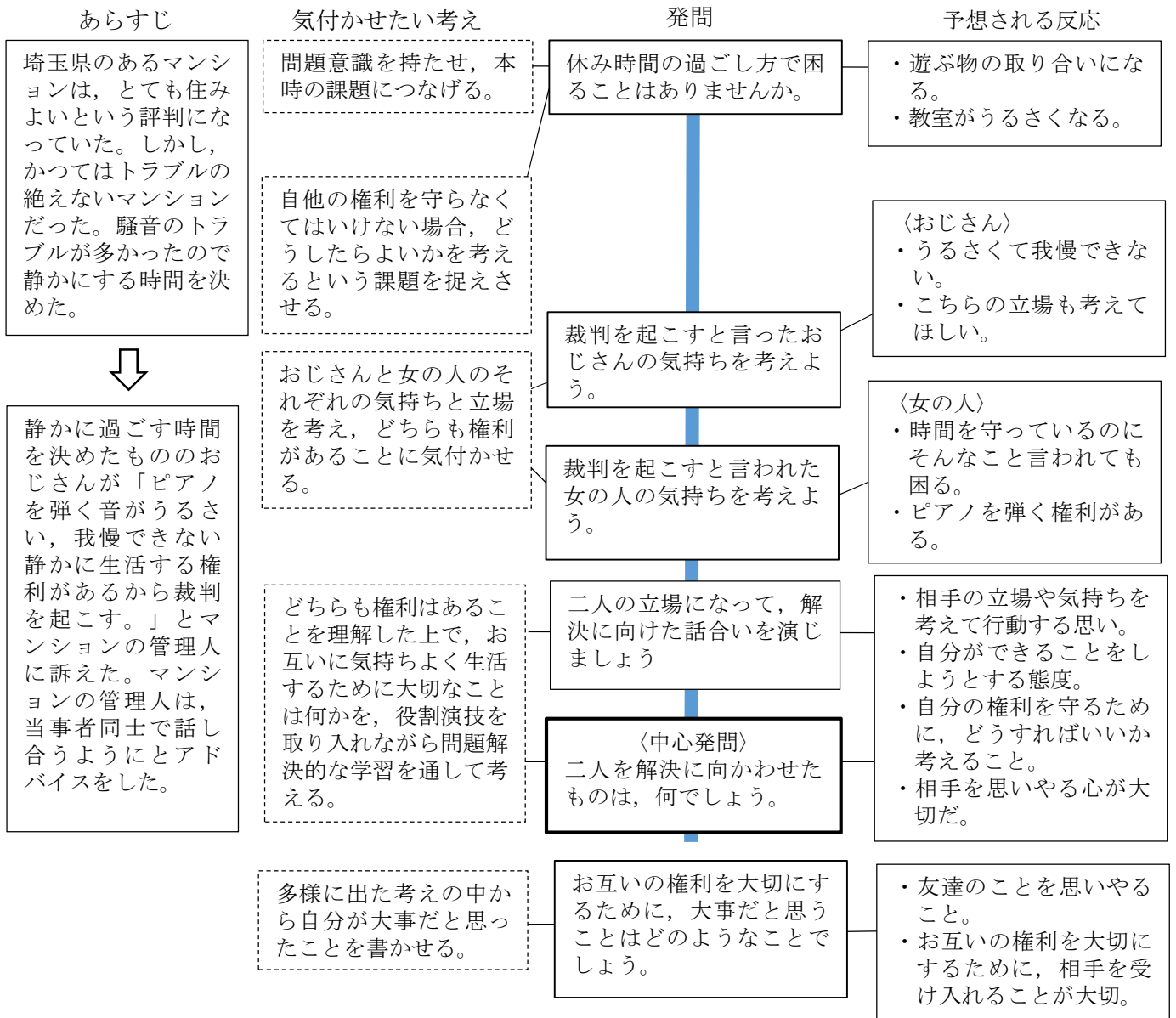
5 他の教育活動との関連



6 補充・深化・統合の視点【統合】

この教材は，多様な道徳的価値について考えることができる内容である。自他の権利の尊重のためには，「相互理解，寛容」「親切，思いやり」「善悪の判断，自律，自由と責任」「希望と勇気，努力と強い意志」「よりよい学校生活，集団生活の充実」などの道徳的価値が関連することが考えられる。自分の権利を主張するとともに，相手の気持ちや立場，権利も考えなければならない。よって，本時は，それらの道徳的価値を統合し自他の権利の尊重について，捉え直すことができるようにする。

7 教材分析・発問構成



8 準備物

教師：教科書、場面絵

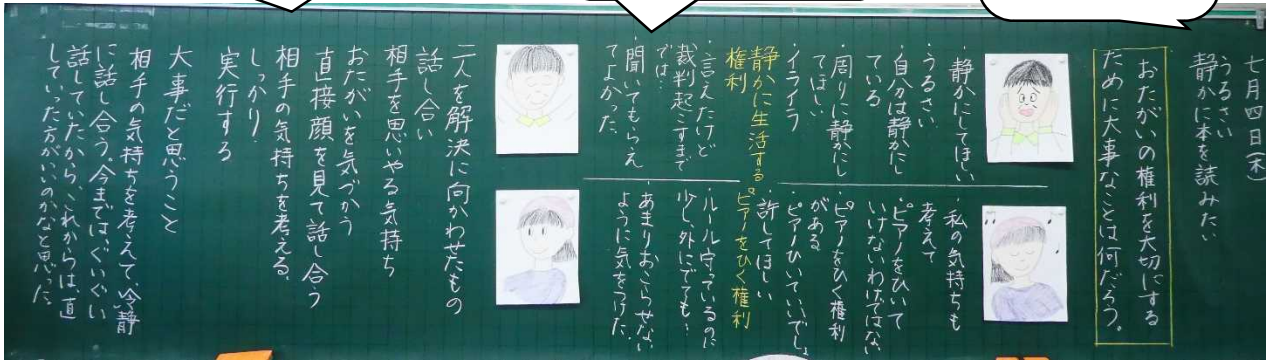
児童：教科書、ノート

9 実践の記録 (○成果, ●課題)

終末に、自己の生き方を振り返ることができるように、考えを黒板に残しておく。

多面的・多角的な見方・考え方ができるように、上下段に分けた。

児童に問題意識を持たせるために身近な問題を取り上げた。



(1) 導入

本時の課題につなげるために、児童が考える必然性がある問題を提示した

○児童の実態から問題の所在を探り、本時のねらいを決めることで、子供たちに考える必然性のある課題を提示することができた。

課題「お互いの権利を大切にするために大事なことは何だろう」

取り上げる日常生活の問題「休み時間の過ごし方で困ることはありませんか」

気付かせたいこと「ルールを守っているだけでは、相手の権利を尊重していることにはならない」

実際のやり取り

T「休み時間の過ごし方で困ることはありませんか」

C「教室がうるさい」

T「どう過ごしたいの？」

C「静かに本を読みたい」

T「教室は静かに過ごすというルールはある？」

C「ないなあ」

T「休み時間は自由に過ごす何を持っているの？」

C「自由に過ごす権利！」

T「でも、自由だから何でもしていいの？」

C「えっ・・・」

※「自由は何でもしていいか」と問い返すことにより、本時の課題に気付かせる。

C「ルールは守る」

T「ルールを守った上で、自由に過ごす権利があるよね」

T「今日は、自分だけでなく、『お互いの権利を大切にするために大事なことは何だろう。』という課題について、みなさんで考えていきます」

(2) 展開

事前読みを活用した

○ 朝の活動などで、事前読みをさせることで簡単に物語のあらすじをとらえ、何が問題なのか考えさせておくことで、すぐに話し合いに入ることができた。

○ 登場人物の心情を捉えるときに、児童の発言に対して、問い返しの発問をすることで、より深く

自分との関わりで心情を捉えさせることができた。

実際のやりとり

- T 「おじさんの気持ちを考えよう。おじさんは、どのような気持ちですか」
C 「イライラしている」
T 「おじさんは、なんでイライラしているの？」
C 「・・・」
T 「みんなはピアノの音がずっと聞こえていたらどう思う？」
C 「イライラするなあ」

役割演技を取り入れた

おじさんと女の人の権利が対立する中心場面では、お互いの権利を尊重するためにどのような話し合いが行われたのかを、想像できるように役割演技を取り入れた。

- お互いの権利を主張するだけでは解決しないことに気付き、相手を思いやることや、お互いに聞き合う態度が必要など、実際にせりふを考えることで、大切な道徳的価値について考えさせることができた。
- 解決しなかったペアの役割演技の後、解決したペアの役割演技を見ることで、第三者立場から見ていた他の児童達は、何が解決に向かわせたのかを考えていたようで、その後の「二人を解決に向かわせたものは何でしょう」という中心発問に対して様々な考えを引き出すことができた。
- 代表のペアに感想を聞くのではなく、そのせりふを取り上げた訳を「どうして〇〇と言ったの？」「〇〇さんは、どうして、～と言ったと思う？」などと聞けば、さらにねらいについて深く考えさせることができた。

(3) 終末

自己を見つめた

- 振り返りの視点を与えることで、今までの自分を振り返り、自他の権利の尊重について、これから大事にしていきたいと思う考えを持たせることができた。

児童感想

- ・ 役割演技でAさんとBさんの気持ちも分かるし、CさんとDさんの気持ちもなるほど・・・となるので、すごくなやみました。そして、最終的には、おたがいに気遣い、相手の気持ちを考えることだと、よく分かりました。
- ・ 今までは、自分の意見をずばずば言っていたけれど、今日、役割演技を見て、原因を考えるだけでなく、解決方法を考えた方がいいと思いました。
- ・ 大事なことは、相手の気持ちを考えて冷静に話し合うことで、今までは、ぼくは考えをがらがん言ってしまうときがあったので、そこを直した方がいいのかなと思いました。
- ・ 自分も迷惑だなあと思うことはたくさんあって、注意すると、逆に言い返されることがあったのでこれからは、相手の気持ちを考えて話すことが大切だなと思いました。